

全体構想図

小学校学習
指導要領

学校教育目標

豊かな心と知性を持ち、健康でやる気のある
21世紀に生きる子どもの育成

児童の実態
地域の実態
教師の願い

目指す児童像

- よさを認め心豊かな子（温かさ）
- よく考えよく学ぶ子（真剣さ）
- 元気でやる気のある子（元気よく）

研究主題

「豊かな心」を持ち、よりよく生きようとする児童の育成
～自ら感じ、考え、学び合う、道徳の時間を目指して～
仮説：中心課題を明確にし、道徳的価値について内省する授業展開の工夫を
すれば、児童が自ら感じ、考えを深め合い、豊かな心を育み、よりよく生き
る児童を育成できるであろう。

研究推進の具体策

I. 道徳の時間における工夫

- (1)資料を吟味し、中心課題を明確にする。
 - ① ねらいとする価値を明確にし、資料を吟味する。
 - ② 児童の実態と資料の主題から、考えさせたい中心課題を設定する。
- (2)授業展開の工夫をする。
 - ① 導入で問題意識を持たせ、発問を精選し、内省化を図る。(登場人物の心情を自分との関わりで考える学習)
 - ② 資料の道徳的問題について、様々な解決策を構想し、自分なりの結論を出す。(問題解決的な学習)
- (3)児童一人一人を生かし、自ら感じ、考えを深め合う工夫をする。
 - ① 資料提示の工夫を考える。
 - ② 書く活動をどう取り入れるか検討する。
 - ③ 効果的な話し合い活動の場と形を考える。
 - ④ 補助資料等の準備物を検討する。
 - ⑤ 構造的な板書計画を考える。

(4)評価を工夫する。

- ① 学習の過程や成果などの記録の積み上げによる、ポートフォリオ評価を工夫する。
- ② 学習活動における表現や態度などの観察による、パフォーマンス評価を工夫する。

II. 家庭・地域との連携

- ① 道徳だより「ほかほかタイムズ」を発行する。
- ② 道徳の時間や道徳集会で地域人材を活用する。
- ③ 授業参観等で、道徳の時間を公開する。
- ④ 「私たちの道徳」を家庭でも活用し、家庭との連携を図る。

III. 指導体制の工夫

- ① 学年協同体制により、毎週の学年会において「道徳の時間」の指導計画についても話し合い、充実を図る。
- ② 担任以外の教職員とのティームティーチングなど、協力的な指導体制を工夫する。